

CVIT (日本心血管インターベンション治療学会) 2017  
に参加して

華岡青洲記念心臓血管クリニック 山口隆義

皆様、こんにちは。華岡青洲記念心臓血管クリニックの山口です。7月6日(木)~8日(土)の3日間で開催された CVIT 2017 に参加してきました。CVIT は心血管カテーテル治療に関わる医師だけではなく、それに携わるコメディカルも多く参加する学会です。私も、長年この学会の会員です。今年は、京都開催ということもあり、参加者はとても多かったようです。

今回の私の仕事は、初日のコメディカル一般口述演題群 CT の座長でした。かつては、放射線領域といえばアンギオと核医学が少々といった所でしたが、最近では CT の発表がおよそ半数を占めている状況です。いつもの CT に特化した学会などとは異なり、心血管インターベンションに関わる様々な視点からの発表が多く、新しい刺激を得られる場でもありますが、中には CT の基本が曖昧な演題もあるため、気をつかう所です。私が担当したセッションの中では、TAVI 術後の Valsalva 血栓症を CT で評価されていた発表が印象的で、今後の術後評価で参考となる内容でした。虚血評価の演題群では、image base の FFR 解析である FFRCT や QFR に加えて、半導体検出器の SPECT 装置による発表もありました。

CVIT では、カテーテル治療のライブデモンストレーションも行われています。その合間の特別企画“Legend が歩んできたインターベンションの世界”では、3 名のご高名な先生からのお話があり拝聴して参りました。その中で印象的だったのは、「Grüntzig が素晴らしいのは、冠動脈狭窄をバルーンで広げる PTCA を開発したことではなく、それを広めようとライブデモンストレーションを始めたことである。」という発言です。確かに、技術の普及や継承は机上だけでは無理ですよね。私も、先日報告させて頂いたように、サブトラクション CT のライブデモンストレーションを今年 1 月に開催された第 27 回日本心血管画像動態学会で行いましたが、リアクションが

とても良く、大変ではありますが、ライブで伝える素晴らしさを実感しました。診療放射線技師の中では、このような活動は難しいのかもしれませんが、色々と模索していきたいなと考えている所です。

前回ご報告した ASCI も京都開催だったので、2か月にわたって京都を訪れた訳ですが、やはり京都はプライベートでのんびり散策したい街ですね。来年の CVIT2018 は神戸開催のようです。京都にも美味しいものは沢山ありましたが、神戸といえばスイーツ、南京町での中華、そして神戸ビーフと美味しいものだらけです。是非、CVIT2018 への参加をご検討下さいませ。



珍しいスッポンの肝刺し。美味い!!  
(偶然見つけたスッポンの専門店にて)